

学習者コーパスに見られる受身文の誤用とその要因について —中国語母語話者を中心に—

Errors of Passive Sentences and its Factors of Misuse in Learner Corpus —Focusing on Chinese Native Speakers—

何 月琦

He Yueqi

Abstract

This research aims to analyze the factors that cause the misuse of Japanese passive sentences among Chinese native speakers. Through the investigation of three learners' corpuses, 346 wrong cases were classified into seven categories using to the sources of misuse. It was found that the majority of mistakes were caused by failing to understand the meaning and the function of passive sentences. Moreover, there is a significant amount of incorrect uses of transitive and intransitive pairs of Japanese verbs, made on verbs ending with "ERU".

キーワード：受身文、学習者コーパス、中国語母語話者、誤用、要因

Keywords : passive sentences, learner corpus, Chinese native speakers, misuse, factor

1. はじめに

日本語の受身文に関する研究は非常に多くの蓄積があるが、中国語を母語とする日本語学習者の受身文の使用実態及び誤用の要因については十分に検討されているとは言えない。本研究では、3つの学習者コーパスを用いて、中国語を母語とする中級から上級レベルの日本語学習者(以下:学習者)による受身文の使用について、受身構文タイプと動詞タイプに着目しながら記述し、受身文の使用実態を明らかにすることで、受身の誤用のパターン及び予測可能な誤用の要因を明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

受身の誤用を母語の影響という観点から分析した先行研究は張(2001)、望月(2009)、史(2016)、王(2017)などがある。張(2001)は、中国語母語話者の母語干渉の観点から受身文の誤用を分析した結果、中国語には日本語のような「一人称代名詞>人間名詞>無生物名詞」といった名詞のランキングが存在しないため、中国語母語話者による「名詞のランキングのずれによる受身文のねじれ」という誤用が起こったと指摘している(p. 127)。望月(2009)は、学習者コーパスにおける受身文の誤用を対応する中国語と対照させながら、誤用の要因を検討した。その結果、「受動形式の脱落」による誤用が顕著であり、その要因が「中国語での主題構文が卓越しているため、受動標識を使わない『意味上の受動文』を許すため、主語、格標識、述語間の形態統語論的な制約が厳しい日本語とは異なり、主題と述語間の形態統語論的な制約が緩やかであること」と指摘している(p. 104)。史(2016)は、学習者コーパスにおける初級学習者の受身誤用は「受身の欠用」(望月(2009)の「受身形式の脱落」に相当)に集中し、動詞の「テンス・アスペクト」の誤用も目立つと指摘している(p. 5)。王(2017)は、学習者コーパスにおける受身文の誤用を分類したところ、受身の「過剰」と「欠如」による誤用が起こりやすく、特に「状態・様態描写」という意味を表す非情主語受身文の誤用が多いと指摘している(p. 110)。

これまでの先行研究における誤用の分類は受身の「脱落」や「付加」など「どのような種類の誤用か」に止まり、「誤用の要因」という観点からの分類は部分的にしかなされてこなかった。また、受身構文の述語動詞の意味的なタイプや形態論的な特徴に注意を払った研究は少なく、誤用の要因の全体像は未だ明らかになっていない。したがって、本研究では、中国語を母語とする日本語学習者の受身文の誤用の要因をパターン化し、その特徴を網羅的に記述することを目指す。

3. 研究方法

3.1. 受身文の分類

日本語の受身文の分類には大きく2つの観点がある。1つは、受身文を対立する能動文の有無によって、大きく「直接受身」と「間接受身」に分類するものである。以下の(1)(2)(3)が「直接受身」であり、(4)が「間接受身」である。

- (1) 李さんは部長に褒められた。 (←部長は李さんを褒めた。)
 - (2) 村上春樹の本は世界中の人に読まれている。(←世界中の人が村上春樹の本を読んでいる。)
 - (3) 横浜赤レンガ倉庫は100年前に建てられた。
- (←(誰かが)100年前に横浜赤レンガ倉庫を建てた。)

- (4) 食事中、隣の人にタバコを吸われた。 (対応する能動文はない)

これに対し、有情物が主語に立ち、行為者をニ格補語とし、「話し手が行為者よりも被動者(受影者)に共感を寄せ、被動者の立場から事態を叙述するための構文」(志波 2005:198)と非情物が主語に立ち、動作主が背景化され、「本来他動詞的な事態であるものを自動詞的な捉え方に持ち込むための受身文」(志波 2005:200)という観点からの分類もある(益岡 1982、志波 2005 等)。本研究は志波(2005)に従い、対応する能動文の有無よりも受身文そのものの意味・機能、及び構造的な特徴の違いを重視する観点から、受身文を、主語が有情物である「有情主語受身文」(上記(1)(4)のようなもの)、および主語が非情物である「非情主語受身文」(上記(2)(3)のようなもの)に大別し、分類した。

3.2. 分析データ

本研究では、「I-JAS」(多言語母語の日本語学習者の横断コーパス; 国立国語研究所)⁽¹⁾の第一次から第三次のデータ、「YNU書き言葉コーパス」(日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス; 横浜国立大学)⁽²⁾(以下:YNU)、「台灣日語學習者語料庫」(台灣人日本語學習者コーパス; 台湾成功大学)⁽³⁾(以下:CTLJ)という3つの學習者コーパスから合計900点の作文データを収集した。作文タスクの一覧と作文データの内訳をそれぞれ表1-1と表1-2に示す。

表1-1 作文タスクの一覧

Corpus	タスク	Corpus	タスク
CTLJ	1. ○○は○○すべきだ	YNU	12. 友人に図書を借りる
CTLJ	2. 社会問題	YNU	13. デジカメ販売台数に関するグラフを説明する
CTLJ	3. 私のお気に入りの店	YNU	14. 市民病院の閉鎖について投書する
CTLJ	4. 私の実家	YNU	15. 入院中の後輩に励ましの手紙を書く
CTLJ	6. 私の好きな映画	YNU	16. 広報紙で国の料理を紹介する
CTLJ	6. 私の宝物	YNU	17. 学長に奨学金増額の必要性を訴える
CTLJ	7. 高校時代の私	YNU	18. 先生に観光スポット・名物の紹介
I-JAS	8. ピクニック	YNU	19. 先輩に起こった出来事を友人に教える
I-JAS	9. 鍵	YNU	20. 先生に早期英語教育についての意見を述べる
I-JAS	10. 私たちの食生活:ファーストフードと家庭料理	YNU	21. 友人に早期英語教育についての意見を述べる
YNU	11. 面識のない先生に図書を借りる	YNU	22. 小学生新聞で七夕の物語を紹介する

表1-2 作文データの内訳

テスト別	レベル・スコア別	學習者(名)	作文数(点)
日本語能力試験 (JLPT)	N1 / 旧1級	78	384
	N2 / 旧2級	115	248
J-CAT 日本語テスト	300点以上 (JLPT 旧1級以上)	4	10
	251~300点 (JLPT 旧1級相当)	46	126
	200~250点 (JLPT 旧2級相当)	51	132
合計		294	900

3.3. 受身の抽出

本研究では、以下の手順で調査対象を抽出した。手順①学習者コーパスから集めた作文 900 点を一文ずつ確認し、受身文と受身表現を用いるべきところで用いられていない文 738 例を抽出した。手順②学習者が産出した表現が日本語として容認できるかを 3 名の日本語母語話者に判定してもらった。判定が揺れた場合、3 名のうち 2 名が同様に下した判定を採用した。手順③学習者が産出したものが適切ではない場合、日本語母語話者に訂正案を書いてもらった。具体的には、出来るだけ文構造を大きく変換しないように、受身文に関わる要素、つまり主語と行為者を表す格助詞、述語動詞について不自然な箇所などをそれぞれ訂正してもらった。

4. 結果及び考察

まず、全体的な結果について報告する。作文データより抽出した調査対象は 738 例あった。そのうち、学習者が正しく使用した受身文(以下:正用)は 392 例あった。許容度判定の結果、誤用が 346 例(誤用率 46.9%)あった(表 2)。表 2 に示すように、受身の使用は中級から上級レベルの学習者にとってもまだ難しいことがうかがえる。本研究は、誤用と判定された 346 例に焦点を当て、誤用の要因を分析する。

表 2 学習者が使用した受身の共容度判定の結果

	正用	誤用	合計
受身	392	346	738
割合	53.1%	46.9%	100.0%

4.1. 誤用の分類方法

受身文の誤用は文法や語彙など複数の要因に関わっているため、誤用タイプを立てる際に、誤用を引き起こす原因を第一要因と第二要因に分類した。具体的な分類方法について、ここで説明したい。なお、誤用例の括弧中に日本語母語話者による訂正案を示す。

- (5) 龍門石窟は山の一面に彫ってある石仏のことなのですが、非常に立派な景色です。そして、名所旧跡といえば、白馬寺もお勧めです。唐の時代に建てたお寺です。(→建てられた)(YUN, C040)
- (6) a. 白馬寺 是 唐朝 建成的 寺庙。(建:他動詞、無マーカー受身文:意味上の受身文)
白馬寺 は 唐朝 建てた 寺
b. *白馬寺 是 唐朝 被 建成的 寺庙。(有マーカー受身文:被構文)
白馬寺 は 唐朝 られる 建てた 寺
(白馬寺は唐の時代に建てられたお寺です。)

例えば、非情主語受身文(5)の問題点は述語動詞「建てる」の受身形を使うべきところに、無標形が用いられたことである。(6a)に示したように、中国語の動詞「建」は日本語の「建てる」と同様に他動詞であるため、誤用の要因は「自他動詞に関する誤用」ではなく、非情主語受身文の動作主背景化機能の未習得が原因だと考えられる。学習者は、(5)のように動作主を問題にせずに出事事が起きたそのことを前景化して述べる際には、日本語では非情主語受身文を用いる、ということを理解していないと考えられる。そして、中国語では、このような場合は(6a)のように、受身マーカー(「被」)を用いずに目的語を動詞に前置させ、動作主を削除した他動詞文を用いることから、(5)のような誤用が生まれると考えられるのである。本研究では、(5)のような誤用を「受身文の意味・機能に関する誤用」に分類した。

- (7) 台湾の教育制度や出生率の低下によって、今の子供達は親に守られすぎて、ますますわがままになっていく。少し教師に殴られたら、すぐに親が抗議して、その教師のことを批判する。そのため、教師は学校にやめされる可能性もある。(→やめさせられる)(CTLJ, 289)
- (8) a. 学校 辞退 老师。(辞退:他動詞、他動詞文)
学校 辞める 教師
- b. 老师 被 学校 辞退。(被構文)
教師 られる 学校 辞める
- c. *老师 使被 学校 辞退。(使役受身文)
教師 させられる 学校 辞める
(教師は学校に辞めさせられる。)

有情主語受身文(7)の問題点は、述語動詞「辞める」の使役受身形を使うべきところに、受身形が用いられたことである。(8a)に示したように、中国語の「辞退」は他動詞であり、「辞退+人」(人を辞める)という他動詞文が存在する。一方、日本語には「学校は教師を辞める」という他動詞文は存在しない。つまり、社会的変化動詞「辞める」の使役形「辞めさせる」は中国語の「辞退」と対応し、日本語ではこの受身形「辞めさせられる」を用いなければならない。本研究では、(7)のような誤用を分類する際に、「自他動詞に関する誤用」を誤用の第一要因とした。また、(8c)に示したように、中国語では「辞退」を用いた使役受身文は成立しないため、「使役受身に関する誤用」を第二要因とした。

4.2. 受身文の誤用タイプ

本研究では、誤用と判定された346例に対し、日本語母語話者に書いてもらった訂正案を参考に、「誤用の要因」によって、表3のように分類した。表3の結果は誤用の第一要因によって分類したものである。

表3 受身文の誤用タイプ

誤用タイプ		学習者による産出文の例	誤用数	誤用率
受身文の意味・機能に関する誤用	有情主語	・ケンは梯子を持って、窓の前に置いて、登ろうとしたところ、警官にそのことを見てしましました。 (→見られてしましました) (I-JAS, CCT04)	63	18.2%
	非情主語	・名所旧跡といえば、白馬寺もお勧めです。唐の時代に建てたお寺です。(→建てられた) (YUN, C040)	49	14.2%
述語動詞の選択ミスに関する誤用		・現在、英語は世界共通語として、世界各国の人々に運用されている。(→使用されている) (CTLJ, 395)	99	28.6%
テンス・アスペクトに関する誤用		・むかし、むかし、あるきれいな女神は織女と呼ばれる。 (→呼ばれていた) (YUN, C047)	70	20.2%
自他動詞に関する誤用		・ケンは梯子を使って家に入ろうとしましたが、その途中、警官に見つかられて、泥棒だと思われました。 (→見つかり) (I-JAS, CCT23)	40	11.6%
使役受身に関する誤用		・新入社員歓迎会だから、新人の鈴木先輩がいっぱい飲まれた。(→飲ませた) (YUN, C054)	17	4.9%
述語動詞の形式に関する誤用		・今の世界では、毎日おもしろくて、新鮮なものが発明られている。(→発明されている) (CTJL, 470)	7	2.0%
授受構文との使い分けに関する誤用		・△△学部の学生から、今の留学生の寮の家賃の高騰と学費免除の全額をいただいているという情況のもと、自分でアルバイトを、勉強に影響を与えない程度しているとのことです。(→学費が全額免除されていない) (YUN, C042)	1	0.3%
		合計	346	100.0%

表3から、受身文の誤用には、「受身文の意味・機能に関する誤用」が最も多かった(112例、32.4%)。受身文の習得においては、受身文の意味・機能を理解することが極めて重要であると言えよう。また、「受身文の述語動詞の選択ミスに関する誤用」に分類される誤用も目立つ(99例、28.6%)。ここでは、中国語の語彙をそのまま日本語に用いた誤用が多く観察された。「テンス・アスペクトに関する誤用」も多かった(70例、20.2%)。史(2016)も指摘していたが、本研究の中級から上級レベルの学習者の作文データにおいても、「テンス・アスペクトに関する誤用」も多いことから、「テンス・アスペクト」の習得が進んでいないことがうかがえる。

本研究では、学習者にとって習得が最も困難であり、かつ厳密に受身の誤用と判断された誤用例、特に先行研究では誤用の要因が十分に検討されていない誤用タイプ(「受身文の意味・機能に関する誤用」「自他動詞に関する誤用」)に焦点を当て、受身構文の述語動詞の意味的なタイプや形態論的な特徴に注意を払って、誤用の要因をパターン化し、その特徴を記述する。また、迫田(2002)は母語の影響であると判断するには、異なる話者を対象にした研究を行う必要があると指摘している。そこで、本研究は「I-JAS」に収録されている韓国語母語話者41名(J-CATスコア200点以上)の作文と先行研究における韓国語母語話者の誤用例を用いて検証する。

4.3. 有情主語受身文に関する誤用

ここでは、「有情主語受身文」に関する誤用を詳しく観察し、記述する。本研究では、「有情主語受身文に関する誤用」に分類された誤用 63 例を「誤用の要因」によって、大きく「有情主語受身文の視点の一貫性に関する誤用」と「有情主語受身文の格体制に関する誤用」の 2 種に分類した(表 4)。表 4 に示すように、有情主語受身文の誤用は「有情主語受身文の視点の一貫性に関する誤用」に集中していることが分かった(58 例、92.1%)。有情主語受身文の習得においては、「話者の視点を統一する」ことを理解することが重要であると言えよう。

表 4 有情主語受身文の誤用タイプ

有情主語受身文の誤用タイプ	誤用数	誤用率
視点の一貫性に関する誤用	58	92.1%
格体制に関する誤用	5	7.9%
合計	63	100.0%

日本語は話者の視点から事態を捉え、描写する性格が強い言語である。話者は当該事態に関与していない場合でも、共感する人物になりきって、事態を描写する傾向が非常に強い(大江 1975、久野 1978、古賀 2018 等)。有情主語受身文は先行研究で指摘されているように、「話し手が行為者よりも被動者(受影者)に共感を寄せ、被動者の立場から事態を叙述するための構文」(志波 2005:198)であり、視点の交替という機能を持つ。「有情主語受身文の視点の一貫性に関する誤用」とは、有情主語受身文において話者の視点が統一されていない誤用を指す。

(9) ケンはうちの鍵を持っていませんでした。(中略)ケンは梯子を持って、窓の前に置いて、登ろうとしたところ、警官にそのことを見てしまいました。(→見られてしまいました)
(I-JAS, CCT04)

(10) 朝、ケンとマリはサンドイッチを作りました。急に犬が箱の中に飛び込みました。マリとケンは地図を見ていて、気付きました。そして、ピクニックへ行きました。箱を開けた後、犬が飛び出して、びっくりしました。そして、サンドイッチとリンゴを食べたことに気付きました。(→食べられていた)(I-JAS, CCM33)

(9) は主語であるケンの立場から「警官に見られた」という事態を叙述するため、視点はケンに寄る。複文の主語を統一するため、動詞「見る」も受身形にしなければならない。(10) でも、文末に「気付きました」と書いてあるので、視点は動物(犬)より人間(ケンとマリ)にあり、従って、主語の統一のため、動詞「食べる」を受身にする必要がある。日本語では、話し手にとって身近さを示す階層(私(話し手)>私の親族・知人>第三者>もの)がある。この階層の高いほうに視点を置き、これを主語にして述べるために受身文が用いられる。こうした機能は、中国語の受身にはないため(古賀 2018)、習得が非常に難しいと考えられる。

4.4. 非情主語受身文に関する誤用

本研究では、志波(2015)における動詞の分類を参考にしながら、「非情主語受身文に関する誤用」に分類された誤用を表5のように分類した。表5に示すように非情主語受身文の誤用は「動作主背景化機能に関する誤用」に集中し、特に生産作成動詞を用いた「生産作成構文(9例)」と「存在型受身文(10例)」の誤用が多かった。

表5 非情主語受身文の誤用タイプ

非情主語受身文の誤用タイプ	誤用数	誤用率
動作主背景化機能 に関する誤用	27	55.1%
生産作成動詞(作る, 書く, 描く, 建てる, 撮影する) / 催行動詞(行う, 開催する, 開く) / 使用動詞(使用する) / 処遇動詞 (捨てる, 楽する) / 発表動詞(放送する) / 譲渡動詞(販売する) / 位置変化動詞(輸 入する) / 状態変化動詞(失う) / 発話動 詞(言う) / 呼称動詞(呼ぶ) / する	10	20.4%
存在型受身文	12	24.5%
合計	49	100.0%

非情主語受身文は、「本来他動詞的な事態であるものを自動詞的な捉え方に持ち込むための受身文」(志波 2005:200)であり、対応する自動詞を持たない無対他動詞の自動詞的表現を補うための機能を果たしている。自動詞相当であるということと関連して、行為者が含意されても個別具体的に想定されないため、行為者が現れないのが通常である。本研究における「非情主語受身文の動作主背景化機能に関する誤用」とは、非情主語受身文の動作主背景化という機能を理解していないことによる誤用を指す。

誤用しやすい動詞: 生産作成動詞、催行動詞、発表動詞、使用動詞、譲渡動詞、位置変化動詞

(11) 龍門石窟は山の一面に彫ってある石仏のことなのですが、非常に立派な景色です。そして、名所旧跡といえば、白馬寺もお勧めです。唐の時代に建てたお寺です。(→建てられた)
(YUN, C040)

(12) 英語が通じない人は国際的なことが分からなくなる可能性が増してくる。英語で書いたニ
ュースが読めない、英語で放送した新聞も聞き取れない、大変である。(→書かれた、放
送された)(CTJL, 395)

(13) 高校を卒業してから、もう三年経ちました。去年の夏休みは「第一回高校同窓会」が開催
しました。(→開催されました)(CTJL, 37)

(11) (12) (13)の問題点は非情主語受身文を使うべきところに、無標形が用いられたことである。現代中国語の受身文は「有マーカー受身文(被構文など)」と「無マーカー受身文(意味上の受身文、先の例(6a))」の2種に分けられている(劉他 1991 など)。「被構文」は主に被害の意

味を表すのに対し、「意味上の受身文」は中立的な意味を伝達するときに適している(梅 2014、杜 2015 など)。他動詞を用いた「意味上の受身文」は、通常の他動詞文や「把構文」の目的語である対象が主語に立つのが基本で、非情物が主語に立つことが多い。動作主は不特定あるいは背景化される場合が多く、中立的な意味を表す(例(6a)(14a)(15a))。他動詞を用いた「意味上の受身文」は日本語の「非情主語受身文」の意味・機能・構造に対応しているが、受身のマークはない。また、「意味上の受身文」の行為者は表れないのが通常だが、中立的な立場から叙述するために、「由」を用いて行為者を表す場合がある。

非情主語受身文構造 : 非情物-ガ (有情物・非情物-ニヨッテ) V-ラレル (志波 2005:201)

意味上の受身文構造 : 非情物 (“由” -有情物・非情物) 他 V

(14) a. 大阪城 是 由 丰臣秀吉 建成的(楊2009)。(意味上の受身文)

大阪城 は によって 豊臣秀吉 建てた

b. *大阪城 是 被 丰臣秀吉 建成的。(被構文)

大阪城 は られる 豊臣秀吉 建てた

(大阪城は豊臣秀吉によって建てられた。)

(15) a. 开学典礼 4月5日 举行(杜2015)。(意味上の受身文)

入学式 4月5日 行う

b. *开学典礼 4月5日 被 举行。(被構文)

入学式 4月5日 られる 行う

(入学式は4月5日に行われる。)

生産作成動詞(作る、建てるなど)、催行動詞(開く、行うなど)は日本語の受身文の述語動詞として用いられるが、中国語の「被構文」の述語動詞としては用いられない(楊 2009、梅 2015、王 2016 など)。また、言語活動を行なってその内容が存在するようになる動詞(発表する、述べる、言うなど)は中国語の「被構文」に用いられるが、被害の意味が含まれており、中立的な意味を持つ日本語の非情主語受身文とニュアンスが異なっている(梅 2015:60)。

以上のことから、学習者は動作主を背景化させたいときに、中国語の「意味上の受身文」の影響を受け、対象を単に「ハ」で取り立てて文頭に置いた上で動詞を能動形のまま、つまり無標の形で用いることで誤用するのだと考えられる。日本語教育で非情主語受身文を指導する際には、学習者が「意味上の受身文」の影響を受けやすいことに注意を促すべきであろう。特に、本研究で指摘した、「生産作成動詞」「催行動詞」による非情主語受身文は使われる頻度も高いため(志波 2015)、注意が必要である。

誤用しやすい非情主語受身文タイプ① : 場所-ニ 非情物-ガ 位置変化/作成 V-無標形

(16) 私の実家は桃園県の八徳市というところにあります。(中略)応接間に大きなテーブルがあります。テーブルの上に花が飾ってあります。壁には大きな水墨画が二枚掛けています。
 (→掛けられています) (CTJL, 37)

(17) 山の斜面などの水土保持が大切なところでビンロウを栽培すると、だんだん土壤は崩れてしまう。そのため、台湾の山の斜面にいっぱい栽培しているビンロウは、もう環境に多大な影響を与えてしました。 (→栽培されている) (CTJL, 120)

(16) (17) の問題点は非情主語受身文を使うべきところに、他動詞文が用いられたことである。日本語では、「何らかの外的行為者の働きかけの残存として、ある場所にあるモノがあるあり方で存在していることを表す」(志波 2015:246)とき、「存在様態受身文」が用いられる。中国語では、その「存在様態受身文」に対応している「存現句」が用いられるが(例(18a))、受身文として成立しない(例(18b))。学習者が「存在様態受身文」を書く際に、非情主語受身文の代わりに、他動詞文を選択する可能性が高い。

存在様態受身文構造: 場所-ニ 具体N-ガ 位置変化/作成/表現V-ラ レテイル(志波 2015:246)

中国語の存現句構造: 場所 他 V-着(テイル) 具体 N

- (18) a. 壁上 挂-着 水墨画。 (存現句)
 壁 かけている 水墨画
 b. *壁上 被 挂-着 水墨画。 (被構文)
 壁 られる かけている 水墨画
 (壁に水墨画がかけられている。)

誤用しやすい非情主語受身文タイプ②: 非情物-ニハ 非情物-ガ 含有V-無標形

- (19) 私は高雄のB出身です。Bはいなかですが、そこの空気には沢山の汚染物質を含んでいます。
 (→が含まれています) (CTJL, 265)
- (20) 毎回旅行をするとき、その地方の代表的なキーホルダーや記念品を買う。(中略)たとえ値段が高くなくとも、気持ちだけの好意の意味が含めて、これも一つお金で買えない友情だ。
 (→含まれて) (CTJL, 36)

(19) (20) の問題点は存在構文の述語動詞の受身形を用いるべきところに、無標形が用いられたことである。日本語では、「主語に立つモノ/コトがニ格で示されるモノ/コトに内在していることを表す」(志波 2015:344)とき、「内在的関係型受身文」が用いられる。内在場所を表すニ格名詞句は「対応する能動文の主語に立つ実体なのだが、行為者性はほとんどない」(志波 2015:345)。「内在的関係型受身文」では、「ニ格名詞句が主題化されたり、受身構文の主語に

前置することが多いという、存在文の構造的特徴を示す」(志波 2015:345)。中国語では、その「内在的関係型受身文」に対応している他動詞文が用いられるが(例(21a))、受身文として成立しない(例(21b))。学習者が「内在的関係型受身文」を使用する際に、他動詞文を用いる可能性が高い。

内在的関係型受身文構造：[非情 N₁-ニハ 非情 N₂-ガ 含有 V-ラレル/ラレテイル](志波 2015:345)

中国語の内在的関係を表す存在文の構造：[非情 N₁-里/中(ニ) 含有 V 非情 N₂]

- (21) a. 香烟 里/中 含有 尼古丁等 数十种 有毒物质。(他動詞文)
 たばこ に 含む ニコチンなど 数十種 毒のある物質
 b. *香烟 里/中 被 含有 尼古丁等 数十种 有毒物质。(被構文)
 たばこ に られる 含む ニコチンなど 数十種 毒のある物質
 (たばこにはニコチンなどの数十種の毒が含まれている。)

日本語教育で、上記の「生産作成動詞」や「催行動詞」などを用いた非情主語受身文を指導する際には、学習者が中国語の「意味上の受身文」の影響を受けやすく、能動文を用いることに注意する必要がある。また、日本語の「存在様態受身文」は中国語の「存現句」とズレがあるため、学習者が「存在様態受身文」を使用する際に、非情主語受身文の代わりに、他動詞文を選択する可能性が高い。

4.5. 自他動詞に関する誤用

本研究では、「自他動詞に関する誤用」に分類された誤用は 40 例(表 6)があった。そのうち、自動詞の誤用は 26 例(65.0%)、他動詞は 14 例(35.0%)あった。先行研究で指摘されているように、日本語の自動詞表現は学習者にとって難しい(庵・張 2018)。また、表 6 に示すように、「自他動詞に関する誤用」は「有対自他動詞」に集中していることがわかった。

表 6 自他動詞の誤用タイプ

自他動詞の誤用タイプ			誤用数	誤用率	
有対自他動詞	活用語尾 [-ARU, -ERU]	[当たる, 当てる]; [かかる, かける]; [決まる, 決める]; [止まる, 止める]; [分かる, 分ける]; [見つかる, 見つける]	20	50.0%	
	活用語尾 [-U, -ERU]	[揃う, 揃える]; [つく, つける]	3	7.5%	
	活用語尾 [-ERU, -ASU]	[覚める, 覚ます]	1	2.5%	
	活用語尾 [-IRU, -OSU]	[起きる, 起こす]	4	10.0%	
無対自動詞	社会的変化動詞	辞める	1	2.5%	
	心理動詞	びっくりする	1	2.5%	
漢語自動詞			感動する, 感心する, 賛成する, 定着する, 滅亡する	10	25.0%
			合計	40 100.0%	

4.5.1. 有対自他動詞

本研究の作文データには、以下の誤用例のように、「揃う・揃える」「見つかる・見つける」「止まる・止める」といった有対自他動詞の誤用が観察された。

- (22) 調理はちょっと時間かかりますが、台所から流れてきた匂いから、皿の中の色、香り、味全部揃われた料理が口からお腹を暖めていくまで、ゆっくり順番に楽しんだり、栄養も控えられたりして、時間がない人にはお勧めです。(→揃った) (I-JAS, CCT27)
- (23) ケンはうちの鍵を持っていませんでした。(中略) 仕方なく、ケンは庭にある梯子を持ってきて、2階の部屋に入ろうとしましたが、それを警官に見つかされました。(→見つかりました) (I-JAS, CCT34)
- (24) ケンはうちの鍵を持っていませんでした。(中略) ちょうど傍に梯子があった。それを使って、二階の窓から入ろうとしたケンは警官に止まれた。(→止められた) (I-JAS, CCM20)

(22) (23) (24) の問題点は、有対自他動詞の自動詞と他動詞の混同である。学習者が自動詞「揃う」「見つかる」「止まる」を他動詞だと思い込んで誤用したのだろう。日本語では可能動詞を含め、活用語尾[-ERU]の動詞は自動詞である場合が多い。そのため、活用語尾[-ERU]の他動詞(「かける」「決める」「揃える」「伝える」「止める」「見つける」「分ける」など)は、動詞の自他混同がされやすいのではないかと予測される。上の誤用は韓国語母語話者の作文にも観察された。日本語教育において有対自他動詞を指導する際には、活用語尾[-ERU]の動詞には他動詞もあることに注意を促すべきであろう。

4.5.2. 漢語自動詞

本研究の作文データには、以下の誤用例のように、受身形式を持たない漢語自動詞が受身文に用いられた誤用が観察された。

- (25) (前略)もちろん、どちらの案にもメリットのところがありますけれど、基本的には、成績のよい、性格の明るい、積極的に勉強している学生を対象とした奨学金ですので、案の一つ目のほうに学生会の大多数が賛成されます。(→賛成しました) (YUN, C059)
- (26) 「クィール」という映画があった。(中略) 多数の人たちがこの映画に感動され、そして影響されて、「クィール」と同じように可愛くて忠実な犬を飼いはじめた。(→感動し) (CTJL, 61)
- (27) このドラマを見た後でともさかりえさんのファンになりました。それはともえかりえさんが美人で演技に感心されたからです。(→感心した) (CTJL, 31)

(25) (26) (27) に共通する問題点は漢語自動詞の無標形を使うべきところに、受身形が用いられたことである。学習者は、自動詞と他動詞を混同して、受身文によって表現してしまったことにより誤用が生じたと考えられる。また、受動的心理動詞「感動する」は中国語の「被構文」の述語動詞に用いられ(「(26) 被感动(感動される)」)、多くの先行研究では、「感動される」という誤用は学習者の母語である中国語からの影響だと指摘されている(杉村 2010、王 2017 など)。一方、他動的状態心理動詞「感心する」は中国語の受身文の述語動詞として用いられない(楊 2009)にも関わらず「感心される」という誤用が起こった理由について、市川他(2010)は「感動する/感心する」は英語の“be impressed”と対応しており、日本語学習者は英語などの影響を受けていると指摘している(p. 52)。また、韓国語でも「漢語動詞+받다/badda/(受ける)」の形で受身形を表すことができ(許 2008:54)、「感動+받다/badda/(感動される)」という表現がある。日本語教育においては、日本語のこうした心理動詞は自動詞であることに注意を促すべきであろう。

5. まとめと今後の課題

本研究では、中国語を母語とする中級から上級レベルの日本語学習者の受身文の使用に焦点を当て、3つの学習者コーパスの分析を通して、受身の誤用実態、誤用パターン及び誤用の要因について検討した。その結果、以下のことが明らかになった。

- 1) 受身文の誤用には、「受身文の意味・機能に関する誤用」による誤りが最も多く、受身文の習得において「受身文の意味・機能」を正確に理解することが難しいと考えられる。
- 2) 「有情主語受身文に関する誤用」においては、「有情主語受身文の視点の一貫性に関する誤用」が最も多く、これは視点のあり方が異なる中国語の影響が強いと考えられる。
- 3) 「非情主語受身文に関する誤用」においては、「動作主背景化機能に関する誤用」が多く、特に「生産作成動詞」や「催行動詞」、「存在様態受身文」の誤用が目立つ。学習者が動作主を背景化し事態の実現に焦点を当てた表現を使う際に、非情主語受身文を用いることができず、中国語の「(受身マーカーがない)意味上の受身文」と「存現句」の影響を受けやすいことに注意を払う必要がある。
- 4) 「自他動詞に関する誤用」においては、有対自他動詞(特に活用語尾[-ERU])の動詞を間違えやすいことに注意を促すべきである。

本研究の限界は、次の通りである。本研究では、母語の影響を中国語母語話者と韓国語母語話者の誤用例を比較することで検証したが、韓国語母語話者の誤用が少なく、十分な比較検証ができなかった。今後、韓国語母語話者の誤用例の数を中国語母語話者と同程度に増やし、母語の影響を検証する。

また、学習者の受身文の使用に関する今後の課題としては次のことが考えられる。まず、学習者コーパスにおける受身文の正用例を対象にし、学習者の中間言語における受身文の使用実態を明らかにする。次に、視点に関する先行研究(古賀 2018 など)を踏まえ、日本語と中国語の視点の違いが学習者の受身/能動の選択にどのような影響を与えていているかを明らかにする。最後に、現行の日本語教科書における受身の記述を分析した上で、受身文の効果的な指導方法を提案する。

注

- (1) 「多言語母語の日本語学習者の横断コーパス:I-JAS」とは、異なった 12 言語を母語とする日本語学習者の発話データと作文データを横断的に収録したコーパスである。
- (2) 「YUN 書き言葉コーパス」とは、日本語母語話者 30 名、中国語母語話者 30 名、韓国語母語話者 30 名を対象とした 12 タスクによる書き言葉の資料である。
- (3) 「台灣日語學習者語料庫」とは、台湾の 13 の高等教育機関で日本語を学ぶ中国語母語話者の作文 1,563 点が収録されている学習者コーパスである。

参考文献

- 市川保子(編著)浅山友貴・荒巻朋子・坂井美佐・太田陽子・坂本まり子・杉本ろっこ・副島昭夫・田代ひとみ・野田景子・本郷智子(著)(2010)『日本語誤用辞典—外国人学習者の誤用から学ぶ日本語の意味用法と指導のポイント—』スリーエーネットワーク
庵功雄・張志剛(2017)「正確で自然な立場の選び方」『わかりやすく書ける作文シラバス』
くろしお出版:3-17
- 大江三郎(1975)『日英語の比較研究:主観性をめぐって』南雲堂
王亜新(2016)「日本語と中国語の受動文に見られる類似点と相違点」『東洋大学人間科学総合研究所紀要』18:41-63
- 王辰寧(2017)「中国語を母語とする日本語学習者の使役文の誤用分析:作文コーパスをデータとして」『熊本大学社会文化研究』14:77-91
- 金澤裕之(編)(2014)『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』ひつじ書房
久野暉(1987)『談話の文法』大修館書店
古賀悠太郎(2018)『現代日本語の視点の研究』ひつじ書房
張麟声(2001)『日本語教育のための誤用分析—中国語話者の母語干渉 20 例—』スリーエーネットワーク
杜暉(2015)「中国語無マーカー受身文の意味分析と形式上の特徴」『現代社会文化研究』61:49-66
志波彩子(2005)「2 つの受身—被動者主役化と脱他動化」『日本語文法』5(2):196-212

- 志波彩子(2015)『現代日本語の受身構文タイプとテクストジャンル』和泉書院
- 杉村泰(2010)「コーパスから見た中国人日本語学習者の格助詞に関する問題点について」『言語文化研究叢書』9:137-152
- 杉村泰(2013)「中国語母語話者における日本語の有対動詞の自動詞・他動詞・受身文の選択について一人為的事態の場合一」『日本語/日本語教育研究』4:21-38
- 史兆紅(2016)「中国語母語話者日本語学習者の受身誤用分析—日本語学習歴1年未満の学習者を中心に—」『比較日本文化学研究』9:1-24
- 迫田久美子(2002)『日本語教育に生かす第二言習得研究』アルク株式会社
- 早津恵美子(1989)「有対他動詞と無対他動詞の違いについて—意味的な特徴を中心に—」『言語研究』95:236-251
- 梅佳(2014)「日本語受身文とその中国語対訳文の対照研究—『動作主なし』の直接受身文を中心について」『比較社会文化研究』35:53-60
- 梅佳(2015)「日中受身文の構文分析—述語動詞の意味特徴を中心に—」『地球社会統合科学研究』3:55-62
- 許明子(2008)「韓国人日本語学習者の『(ら)れる』の使用に見られる誤用分析」『文藝言語研究. 言語篇』53:51-61
- 益岡隆志(1982)「日本語受動文の意味分析」『言語研究』82:48-64
- 望月圭子(2009)「中国語を母語とする上級日本語学習者によるヴォイスの誤用分析—中国語との対照から—」『東京外国語大学論集』78:85-106
- 劉月華・潘文娟・故饒(著)相原茂(監訳)(1991)『中国語現代文法総覧(下)』くろしお出版
- 劉瑞利(2018)「中国語を母語とする上級日本語学習者の『名詞+動詞』コロケーションの使用—日本語母語話者との使用上の違い及び母語の影響—」『日本語教育』169:31-45
- 楊彩虹(2009)「中国語受身文の成立条件—日本語との対照研究を通して—」『NEAR conference proceedings working papers』NEAR-2009-10:1-23

例文出典

- 「多言語母語の日本語学習者の横断コーパス:I-JAS」
「YNU書き言葉コーパス」
「台灣日語學習者語料庫」